

広葉小学校区における適正配置にかかる住民説明会

と き 平成 20 年 7 月 5 日 (土)

ところ 広葉小学校 視聴覚室

じかん 10 : 00 ~ 12 : 00

参加者 9 名

事務局 教育長 白崎 三千年
管理部長 小菅 敏博
教育施策推進担当参事 工藤 正
主査 川合 隆典
主事 木村 洋一郎
教育相談員 宮村 昭

-
- 開 会 10 : 05 ~ 進行司会 小菅部長
 - 教育長挨拶 10 : 05 ~ 10 : 10
北広島団地内小学校の新たな適正配置及び本日の説明会の主旨説明
 - 北広島団地内小学校の適正配置について説明 10 : 10 ~ 10 : 30
工藤参事から、資料に基づき説明
 - 参加者からの意見、質問 10 : 30 ~

事務局 それではこれから質疑応答に入らせて頂きます。

住 民 昨夜、はじめて説明会に参加しましたが、強く感じたことは、昨夜参加した方々の教育委員会に対しての不信感が強くなっている印象を受けました。同じ質問に対して、同じ回答をして、あまり有効でなかった印象を受けています。

その一つの要因としては、統合して小規模学校を解消する。広葉小学校を廃校にして、若葉小学校を使う。それを前提にして、教育委員会の考え方及び資料がその方向での説明しかありません。もっと具体的に言いますと、小規模学校をなくするためのメリットしかありません。小規模学級自身のメリットも合わせて提示することによって、より小規模学校を解消して統合しなければならない理由になると思います。最初から統合する、統合のメリットしか言っていない。それから、若葉小学校と広葉小学校を比較して若葉小学校の良い点しか言っておらず、両校のメリット、デメリットが説明の中で書かれていません。方向を決めていて一方的な説明しかしていません。

今日は、2点ほど意見を申し上げたいと思います。

まず一点目は、統合の問題は少子化問題が根底にあると思います。少子化に対し、市

としての抜本的な対策が何もしられていなかった。児童が減少しているということは、全国的なもので、全国一律に同じようにならないうという無策で今日まで来ています。それに対する責任を感じていません。ただ単に、小学校の統廃合を進めるということ。これは、高校の統合とはかなり違うことだと思います。高校と義務教育である小中学校との目的・機能が大きく違っていて、地域住民との関連が非常に深いと思います。これを、高校などと同じように、規模が小さくなったら統合して廃校にする考えを進めていくことは考え直すべきです。少子化の問題は、教育委員会だけの問題ではなく、市として考えなければならないと思います。具体的には、若者に魅力あるまちづくりをしなければなりません。どうするか、それはみんなで知恵を集めるしかないと思います。教育委員会や市の職員だけで考えるのではなく、市民全体が知恵を出し合う、そういう機会を作り上げる方法があると思いますし、その他の方法もあると思います。北広島市の場合、文化施設やイベントが貧弱すぎます。若者にとって、魅力の無いまちになってきています。そのために、子どもさんが増えません。どこまで増えるかは別にしまして、その努力をすることが必要だと思います。少子化の根底にある問題解決は、教育委員会だけではなく、市が取り組む必要があると意見として申し上げます。

二点目として、広葉小学校が廃校になった後の跡地利用についてですが、まだ、再建計画は無いと言っていますが、一部には計画があり、土建業者と癒着して汚職につながるという憶測も無きにしも非ず、だと思います。透明な形で再開発をどうするか、ということがはっきり説明されていないと思います。昨夜の意見の中でも、第一住区から小学校が無くなってしまふことに関しての不安感が、色々な形で表現されている、と私は理解しています。このことは、小学校が地域に果たしてきた機能があったということです。それは、通常の義務教育のほかに学童クラブがあったり、父兄の方々が運動会・参観日などを通して交流を深めてきました。また、おたっしやクラブでの児童と高齢者との交流がありました。これが、距離が遠くなることに伴って、だんだんそのような機会がなくなってしまいます。つまり、第一住区から、そういう機能が無くなってしまふことに対する不安に対して、跡地をどうするか、あるいは建物の再利用を含めてどのように考えているかについて、住民も参加し、透明な形で話を進めていくという、はっきりとした発言若しくは考えを提示する必要があると思います。跡地の再開発に対する説明や、従来、小学校が持っていた地域社会との機能を、跡地の中に何らかの形で残していくことが必要だと思います。そういう約束が無ければ、地域の方々の反対は続くでしょうし、市の説明に対して、絶対納得できないと思います。

以上、具体的なことではなく、漠然としたことですが、二点の意見に対して、よろしく申し上げます。

事務局 二点について、貴重なご意見をいただきました。

まず、一点目の少子化について、抜本的な対策が無いというお話がありました。ご存

知のように、市役所には色々な部署がございます。現在、少子化の問題とともに高齢化の問題は、市に課せられた大きな課題として、それぞれの部署で、施策や事業に取り組んでいるつもりですが、なかなか皆さんにご理解をいただけない面があるかもしれません。

市では、大きな事業を展開していく上で、総合計画を策定しています。この総合計画の策定にあたっては、市民の皆さんにも入っていただき、10年単位で策定しています。

その総合計画を中心として、事業に取り組んでおります。現在の総合計画は、平成13年度から平成22年度までとなっております。平成22年度以降は、新たに総合計画を策定していくこととなります。この中では、当然、市民の皆さんの意見なども取り入れながら、大きな計画に作り上げていくこととなりますので、皆さんの意見も反映されていくものと考えております。

第2点目の跡地利用についてですが、校舎につきましては、教育委員会で管理はしておりますが市民の皆さんの財産です。広葉小学校の校舎は、昭和47年度に建設しておりますので、建設されてから36年ほど経過しております。ある程度古くなってきておりますので、施設補修も必要になってきますが、まだまだ使用できる施設であると考えております。貴重な財産ですので、長く使用することによってその財産が有効に使われていきます。跡地利用の再開発について明確でないというお話がありましたが、私どもは、これまでの説明会で、基本的に教育環境の整備という観点から終始一貫、お話をさせていただいてきております。跡地利用については、統合の方向付けがされましたら、市役所内部での検討に加えまして、市民の皆さんの意見を聞きながら、その後の跡利用について検討をしていくと、議会でも答弁させていただいております。

事務局 校舎選定と跡地利用についてご理解をいただく上で、その両方の提示を並行して進めるべきではないかという、説明会の進め方について内部でさうとう議論をしました。今、ご意見をいただきましたが、ご意見のように、跡利用も含めてご説明をすることによって、ご理解をいただける面があると考えておりました。しかし、子どもの環境を中心にしながら、跡利用と合わせてご説明することにより、逆に、子ども中心で考える学校教育でありながら、矛盾するのではないかと真剣に考えました。

とにかく、今の教育環境を整えることを中心に、ご理解をいただくという判断で進めさせていただいております。

住 民 教育環境の整備といっても漠然としていますので、もう少し具体的に言っていただきたいと思います。昨日、参加していた皆さんの不満について考えていきますと、第一住区から、従来から持っていた小学校の機能が失われてしまうので、その機能について何かの形で温存させていくことに対する考え。例えば、学童クラブについては、こういう形態で残すということ提示してほしいと思います。昨日の皆さんの話しでは、学童クラ

ブを若葉小学校の中に作ってしまう、そうすると北進町の児童は遠くなってしまふことに対する危惧があったと思います。そうであれば、広葉小学校の跡地に分室のようなものを作るということを提示して、もう少し、住民の目線に立って進めていただければ、昨日の説明会ももう少し違ったものになったと思います。

事務局 学童クラブの関係についてですが、広葉小学校の場合は学校内にありますが、管理につきましては、教育委員会ではなく、市長部局の保健福祉部の管理になります。学童クラブについては、一小学校区に一学童という方針をもっております。例えば、広葉小学校と若葉小学校が統合した場合、そこに一つの学童クラブを設置する方針があります。

しかし、学校内に設置するとか、若葉小学校に移転する、ということが決まっているわけではありません。基本的には、今の学童クラブにつきましては、統合が決まった後に、保護者の皆さんと協議をしながら決定していくこととなりますが、決定しない限り、現在の広葉小学校内で運営することとなります。統合が決まった後に、すぐに若葉小学校に移転するというものではありません。

住 民 広葉小学校が無くなっても、学童クラブは、残るということでしょうか。

事務局 表現の仕方が悪く、申し訳ありません。今、学童クラブとおたっしやクラブは、広葉小学校内にあります。今回の統合ということは、両校を一度廃校にして、新たな学校を作るということで説明をさせていただいています。その中で、保護者の皆さんは、学童クラブのことにつきまして非常に心配されておまして、昨日も多くの発言がありました。学童クラブにつきましては、若葉小学校の校舎を使用するようになって、強制的に移転させるということではありません。はっきりと統合が方向付けされた後に、それ以後に保健福祉部の方で、保護者の皆さんの意見を聞き、十分に協議をさせていただきながら、どこに学童クラブを設置するかについても決定していきたいということです。

住 民 その辺の説明について、昨日はありませんでしたね。

住 民 何度か説明会に参加させていただいています。昨日も参加させていただきました。学校統廃合決定以降の学童クラブや、跡地利用についてのお話は毎回出ています。ただ、この問題で一番重要なのは学校教育をどこの場でするかについてで、それに付随して参加している皆さんは、色々な考え方で質問をしています。しかし、物事には順番があると思います。先に決めなければならないものがあるのに、後のものを決めることはできないと思います。教育委員会の学校統廃合についても、まず、学校をどうするかということの説明していますが、どういうわけか順番を取り違えて、学校の統廃合は不安だと言っているのと同時に、跡地利用や学童クラブについても聞いています。昨日も、学童

クラブについて聞いていました。教育委員会の説明でも、統合して一つの学校になって、学童クラブがどのようなかについて、説明がはっきりしていなかったと思います。広葉小学校を使用する場合は、現在の学童クラブを使う。若葉小学校を使用する場合は、若葉小学校に新たに学童クラブを作る、という明確な返事が無かったと思います。一部の方からは、北進町から住民センターまで通わなければならないのか、という質問もありました。教育委員会の説明は一貫しています。それは、広葉小学校か若葉小学校に決まった場合は、そこに学童クラブを開設すると言っているのですが、出席している皆さんには理解されていないように思います。その辺のところ、今日は出席者が少ないのですが、先ほどの回答ではっきりしましたね。間違いありませんね。

事務局 教育委員会としましては、最初から教育環境の整備ということで説明をさせていただいております。市民の皆さんの立場からすると、教育環境の整備ということも理解していただいていると思いますが、それだけではなく、学童クラブや校舎の跡利用についても非常に大切であると思っています。ということは、皆さんが学校に対して愛情をもたれている証だと思います。そして、市民の皆さんからすると、教育環境の整備だけでなく、学童クラブや校舎の跡利用についても合わせて総合的に考えたい、というお気持ちも理解しております。そのため、私どもも市の担当部局にお話をし、検討してもらったり、直接市の担当者が説明会に参加して、市の立場などを説明してきております。教育委員会としましては、基本的には教育について説明をしてきておりますが、皆さんから出されています学童クラブや校舎の跡利用などのお話も、重要であるとしてらえております。

それから、学童クラブについてですが、先ほども説明していますが、現在、広葉小学校に学童クラブがあります。広葉小と若葉小学校が統合されましても、その校区内に学童クラブが必要になりますし、今後もその中に存続していくものと考えています。ただ、学童クラブの位置につきましては、今のまま、現在の広葉小学校の校舎内に残すか、それとも新たな場所に設置をするかなどを、保護者の方々と協議をいたしまして決めていくことになると考えております。

住 民 新しく学校が開校するまでの3年間の間に、その問題についても一緒に決めていくということですね。

事務局 統合により使用する校舎が決まりましたら、検討して行くこととなります。

住 民 広葉小学校と若葉小学校の両校の保護者、地域の方と決めていくこととなりますね。

事務局 基本的には、学童クラブに通っているお子さんの保護者が中心になると思います。

住 民 それからも一つですが、昨日も説明会に参加して、私の発言に対して、他の方が「その話はもう聞いた」と憤慨している方がいました。しかし、今日、また発言させていただきますが、私が通った学校の統廃合について、5年間かかり、4つの学校が1つになりました。その後、市町村合併がありました。その話は聞き飽きたと言っている人がいましたが、この統廃合の問題は色々なことが絡んでいると思います。先生一人に生徒が一人が理想かもしれませんが、それでは財政がもちません。通学距離についてですが、私は2.2 kmを9年間歩いて通学しました。通学していくうちに、仲が悪かった友達とも仲良くなることができました。2.2 kmを歩いて通学することは、小学校3年生ぐらいまでは、辛いと思いましたが、4年生ぐらいからは、往復の通学の中で学ぶことが非常に多くあったと感じています。通学距離が長くなったからといっても、悪いことばかりや否定するもではないと思います。私の経験から、学校の登下校で学ぶことが大変多くあると思います。それと、人数の少ないということは寂しいことです。人数が多く色々な人と交流することができ、色々な先生に教えてもらえることはすばらしいと思います。私もそういう教育を受けたかった、と今でも思っています。人と関わるということは楽しいと思います。

また、皆さんは通学路の安全に対して不安をもっています。若葉小学校の校舎を使用する場合、教育委員会ではパトロールを充実すると言っています。しかし、地域の人も子どもが心配であれば、地域で組織を立ち上げていくべきと思います。

他にもう少し言いたいことがあります。私は、教育委員会の考え方にほぼ賛成しています。不安はたくさんありますが、その不安が今の不安なのか、これから10年先、20年先の不安なのかについて考えた時に、私自身のこれまでの経験から、目先のことばかり見ていたときに失敗しています。失敗をしないためには10年先、20年先、もっと先に、子供たちが安心してこの地域で生活できるように、学校に通えるようにしてあげることができればいいと思います。以上です。

事務局 通学時の安全確保についてですが、教育委員会は当然ですが、地域の方々にも協力を得ながら安全確保に努めていきたいと考えております。統合の方針が決まり、統合委員会ができましたら、大きな課題の一つになりますので、その中で、より具体的な検討に入っていくことになると思っております。

住 民 学校がどちらに決まっても、地域で安全パトロールをするということは、地域の人が考えて行かなければならない大きな問題だと思います。今、少ししていますが、まだまだ足りないと思います。ここ2年ぐらい前から、変質者が27、8件出ていますが、逮捕されたのは1人しかいません。こういう状態ですので、子どもの登下校する時間帯に保護者の方々が外に出て、庭の草むしりをしていてもいいと思いますし、玄関に立っていてもパトロールになると思います。それが大きな力になると思います。私も、第一住

区で3年間パトロールをしています。皆さんの関心は薄いように感じています。保護者の方々が、通学の安全を危惧している割には、自分で実践もせず、知恵も出していないのが現状だと思います。

事務局 学校に関係をする立場からいたしますと、学校での行事には、地域の方々に協力していただいております。また、地域の方々、お一人おひとりが、ボランティアの精神をお持ちになっていただくこと、それが地域に広がっていくことが、地域で地域を守るという力になって行くと思います。逆に、ボランティアを強制することにはなりませんし、輪が広がっていくことを大いに期待しているところでもあります。行政でも、色々な取り組みをしておりますので、その中でそういう輪が広がって欲しいと思っております。

住 民 私も何度か説明会に参加させていただいています。教育委員会の考え方と、説明会で出されている意見とに食い違いがあると思います。何故かという、複数学級での教育について否定する方はいないと思いますが、今、複数学級が必要なので統合したいという説明では、実際に通学距離が延びたり、不審者が出たりする中で、地域に定着している学校を無くす、ということに対する不安が大きくあります。2学級が必要だからといって統合します、と言っても、私もそうですが、一方で、そこまでして統合する必要性がある、という説得力が無いと思っています。実際に、資料の1ページを見ても少子化で子どもが少なくなっています、と言っていますが、広葉小学校と若葉小学校については減ってきていますが、激減しているわけではありません。そのため、どうしても学校統合しなければならないという必要性については、通学上の問題、学校を変わなければならない問題、地域から学校がなくなる問題をかかえてまで統合しなければならない、という説得力は無いと思っています。全国的にも、小規模学校を無くしていこうとしている時ですが、文部科学省でも小規模校の良さもあるので、地域の住民との合意を抜きにして統廃合を進めることはよくない、という考えがあります。先ほども発言された方がいますが、小学校は、地域のコミュニティーにとって大事なものであり、跡地で何かが残るかもしれませんが、やはり、学校が無くなるということに対する地域住民の気持ちは、非常に大きな問題があると思います。そういう意味で、私も何度も質問させていただきました。複数学級がいいのは理解していますが、これらの問題を押しで、学校統合する必要性について、私は無いと感じています。

それから、世界的にも、国内でも、少人数学級という傾向があります。きちんと物事を教えるとすれば、35人学級でも多いと思います。ヨーロッパでは20人学級が主流となってきています。今回の問題は、小規模学校ではクラス替えができない、ということであれば、1クラスの人数を減らすという意見を出しました。それに対する教育委員会の答えは、既存の制度でしかやりません、という回答でした。私は、道教委にも照会をしました。以前の説明では、制度的に無理だということでしたが、道教委では市町村

で35人以下の学級編制についてはどんどん行って下さい、という回答でした。財政的な問題はあるかもしれませんが、制度的にできないという説明をしてきましたが、実際にはそれができるとい状況の中で、その辺の所も含めて、今後の北広島市の学校をどのようにしていくかについて、考えていかなければならないと思います。少子化対策と言っていますが、少子化ということに対しての基本的な教育のあり方が示されていない中で、人数が減っているから統合するという、小手先の考え方で進めることはよくないと思います。今後、北広島市全体が少子化に向かっていくのであれば、少子化時代での学校教育のあり方について、根本的に考えなければならぬ時期だと思っています。ただ、そのためには北広島団地が急速に減っている状況では、先進事例として、きちんと検討していくことが大事だと思います。ですから、安易に人数が減ったから、統廃合していくというやり方は、今後長い目で見た時によろしくないと思います。

それからもう一つ、急激に北広島団地の人口が減っているということは、単なる少子化だけの理由で説明できないと思います。やはり、まちづくり全体の市の施策が後手にまわっているということが、団地内の人口が減少している原因だと思います。それを逆に言うと、きちんとしたまちづくりの施策を行えば、他の団地外の地域と同程度の子どもの確保は可能になってくると言えます。ですので、現在の団地の現状だけを見て、教育委員会だけで学校統廃合をするやり方ではなく、市全体のまちづくりや教育のあり方などをきちんと考えていくことが一番大事だと思います。縦割りなのかもしれませんが、そのところが全体的に無いと思いますし、とりあえず目先の団地だけ統廃合をするというやり方は、長い目で見ているやり方では無いと思います。学校の運営は、地域の住民とのつながりの中で行っていくものですから、地域住民の意見をきちんと聞きながら進めていくということが、大事だと思います。確かに、説明はされていますが、不安を解消しようとか、全体像をきちんと見せていこうというところが無いので、毎回説明はされているのですが、不信感だけが残ってしまうのではないかと考えています。学童保育の問題についてもそうですが、統合が決まったら決めます、と言っています。学童保育の担当に伺いますと、統合が決まっていけないのではっきりしていないと言っています。

しかし、実際に統合が決まってから学童保育をどうするかとした時に、学校内に学童保育が作ることができるのかについては、校舎の広さなどを検討しなければ結論が出ません。若葉小学校に統合することが決まってから、校舎内には空き教室は無いので、外に行ってくださいという状況が想像されます。ですから、トータルで市の考え方を示して、住民の理解を得るとい考えがないので、住民の不信感が募るのだと思います。

ということから、私は学校統廃合を今決めるのでは無く、もう少し抜本的な対策を講じた方が生産的だと思います。

事務局 学校統廃合につきましては、他の説明会の折にも説明させていただいていますが、議会等で、平成15年頃から児童数減少に伴う課題について提起されています。市内全体

を見ますと、児童数が増えている地域と、北広島団地地区のように減少している地域があります。学級規模でいいますと、24学級の学校から6学級の学校まで、4倍の学校規模の差がありました。そこで、平成17年6月に、北広島市内の小学校の適正規模及び適正配置について、通学区域審議会に諮問をし、審議をしてきた経過があります。その中で、通学区域審議会から、平成17年11月15日「小学校の適正規模」について、平成18年12月27日「小学校の適正配置」については、団地内の4小学校を2校にするとの答申がありました。これを受けまして教育委員会で現地調査などを含めまして検討をしてきまして、平成19年7月23日の教育委員会会議におきまして教育委員会としての方向付けをし、8月1日から説明会を始めています。先ほど、小規模学級の良さについてお話しされていますが、私どもも、小規模学級の良さにつきましては、十分理解しているつもりです。逆に、小規模の学校を経験されて、もっと大規模の学校に通いたかったという意見もあります。全道的には、地理的条件、人数の関係から適正規模にしたくてもできない市町村もあります。

しかし、北広島市の場合は、適正規模の学校を作ることができ、教育環境を整えることができる状況にあります。そういうことから、教育行政を司る私ども教育委員会としては、今までの経過、今後のことなども踏まえた上で、今取り組まなければ子どもの減少に対応していくことができないと考え、このような方針を決定し説明してきております。

少人数学級につきましても、今までの説明会で何度も伺っております。教員の人件費につきましては、国及び道で負担しております。市独自の基準で少人数学級を編制することもできますが、そうした場合はその人件費につきましても市単独ということになりますし、市内全体で実施ということになりますと、財政的には現実的でなくなります。基本的考え方は、現状の国・道で定めている学級編制基準で考えております。

まちづくりの施策が後手にまわっている、というお話がありました。このことにつきましても、説明会で何度か出されております。市といたしましても、この問題につきましては十分理解しており、市の各部署におきましても、少子化対策や人口や子どもが増える対策を検討しております。他の部署になりますので、申し訳ありませんが、具体的な事業につきましてはお答えできませんが、まちづくりを全体の視点で捉えるよう市全体でも考えており、政策事業に反映するように進めております。

学童保育についてですが、私どもは、これまで説明会で、教育環境の整備という視点から、説明させていただいております。今回の学校統合についての基本的な方針を出すまでに、学童保育や財政的なことにつきましても課題としてありましたが、教育環境の整備と一緒に説明していきますと誤解される面もありますので、あくまでも、私どもは、教育環境の整備についてご理解をいただくということで説明させていただいております。

住 民 質問させていただきます。資料2ページで「北広島団地内の小学校の新たな適正配置について、広葉小学校と若葉小学校を統合し、その後使用する校舎については、若葉小学校が望ましいと考える。」これについて、私たちが通常受け止める表現としましては、広葉小学校を廃校し若葉小学校に統合する、という理解の仕方があります。

しかし、教育委員会の説明は違います。広葉小学校と若葉小学校を廃校して、新たな小学校を作る。建物と場所については、現在の若葉小学校の校舎を利用すると言っていました。何故このような違いになるのか。一つには、廃校される側の第一住区住民の気持ちをそらすためだと思います。両校が無くなるということを主張するために言っているのか、それとも統合という場合は通常このような表現になるのか、したがって、若葉小学校という名前は必ずしも残らないと言っているようですが、その辺のところをもう少し説明していただきたいのです。

事務局 統合のやり方、方法について説明いたしますと、各市町村の置かれている条件が違います。一般的に、多くの市町村では、財政的な理由で学校統廃合を進めています。しかし、北広島市の場合は財政的な理由ではなく、1回目から言っていますが、教育環境の整備ということで説明をしております。

それと、学校を統合して、残る学校に廃止になる学校の子供達が行って貰う、という発想になりますと、少なくとも、残る学校の側の子供達はいいいのかもしれませんが、吸収される考え方で、統合される子供達や保護者の方々のことを考えますと、いじめの問題などの課題があります。団地内の4小学校とも、同じように児童数が減少してきていますので、4小学校を一旦廃止し、新たな2校を作る。使用する校舎については、どちらの校舎が、教育的環境の面からよりすぐれているのか、ということで考えてきています。今回は、両校の名前を無くし、両校で話し合っ、両校が融合しながら、一つになりながら、新たなスタートを切れるように考えています。そのため、両校に統合委員会的なものを作り、お互いに検討し、お互いに納得・理解できるような校名を考えていただくことや、教育課程についても検討していただきます。広葉小学校と若葉小学校は、となり同士ではありますが、全てを理解しているわけではありません。そのため、交流を行うことによって理解し合えると思いますので、交流しながら一つの学校を作っていただきたいということから、両校を一旦廃止し、新たな学校をみんなで作っていきたくて考えています。ただ、校舎につきましては、新しい校舎を中心に建設できれば一番良いと思います。しかし、何度も説明させていただいていますが、両校の校舎は、まだ長く使用することができます。校舎は市民の皆さんの貴重な財産ですので、使っていくべきであり、使っていかなければならないと思っています。そこで、若葉小学校の校舎を使い、新たな学校を立ち上げたいと思っています。

住 民 先ほど、平成17年のお話しをしていましたが、私はちょうど引越しをしてきたばかり

りで、よくわからずに適正規模の説明会に参加しました。その時に、「1学年2学級ぐらいでどうですか」と教育委員会の同じメンバーの方が、説明をされたと思います。私はその時に、1学年2学級にすると聞かれたら、必ず悪くないと答えますが、今の状況で、1学年2学級にするとすると、その後必ず学校統廃合という問題が出てくるのではないですか。その問題も含めて、きちんと1学年2学級ということについて住民に説明しないと、ただ、1学年2学級が良いとか悪いとかの話をして意味がない、という意見を出させていただきました。その時の教育委員会の答えは、学校統廃合については、今の時点では全く白紙で決まっています。ただ、今回の答申は1学年2学級についていかなものか、ということについて住民の意見を聞きたいという話をしました。ところが、次に出てきたのが今回の学校統廃合の説明です。この間、説明会が行われるわけではなく、急に出てきたのが今回の学校統廃合の説明です。やはり、私は、このようなやり方で、いわば住民をはめるようなやり方が、住民に対する不信感を持たしていると思います。当時その時に、通学路が遠くなくても良いから2学級にしてほしい、という意見を言った方もいましたが、結局、その方自身が統廃合に対して非常に問題だ、という意見を出していました。教育委員会では、理解を得られながら進めてきていると言っていますが、実態としては非常に問題のあるやり方だと思います。これは感想です。

もう一点、学校教育のあり方は、財政上の問題ではない、と言っていますが、結局、少人数教育をすると、市が持ち出さなければならぬのでできないと言っています。他の学校との交流を深めることによって、成長にもつながるということで、実際に他の県で行っている学校同士での交流など、既存の今の体制の中で行うことができる、という意見を私が出しましたが、それも体制的な問題、財政的な問題でできないという回答でした。結局、今まで少人数の学校で行っている良さを生かしながら、もう少し、子ども同士が集団で学び合うことについて、市の方では全くやる気が無かった。それをやらないで、学校統廃合をやりますと言っています。小規模学校の良さを無くして、集団的な学校教育を進めていくというやり方でしかない、と思います。そうですから、教育委員会の方が、少人数学級の良さを認めているといっても、結局、少人数学級の良さは、今回の統廃合で無くなっていくわけです。ですから、財政的問題がクリアできるかどうかは分かりませんが、この辺のことも検討した上で、少人数学級を生かしながら、集団での教育効果を高めるというやり方が無いのかどうかを、私は検討していないと思います。そここのところを抜本的に見直すべきだと思います。

住 民 関連して質問させていただきます。私は、現在66歳になりますが、就職して最初に行った地域には当時、小学校が13校、中学校が3校ありました。そして、小学校が3校に、中学校を1校にすると聞きました。今回もそうですが、学校統合問題は大変難しいと思います。結果的に、何十年もたった現在、その地域の学校は小学校が5校で、中学校は3校のままです。その地域の人数は当然減ってきていますが、そういう状況が続

いています。さらに、現在は価値観の多様化ということにより、おそらくここに出ている色々な意見で反対という立場の人、一貫して反対という人もいるでしょうし、賛成という人もいるでしょうし、また、色々話し合いをする中で納得できてきた、という人もいます。統合というのは本当に難しい要素を含んでいます。その要素については、先ほどから色々な方が言っています。その中で一点だけ、私も少人数学級実現のため関わった経験がありますので、少人数学級について触れたいと思います。全国的にもこの問題について取り組んでおりまして、47都道府県の中で全く触れていないのは東京都だけです。断固として、少人数学級はやらないと言っているそうです。他の道府県は、財政的に厳しい中で、色々努力をして、かなり大幅に実施している地域が全国の中にあります。そして、北海道のように行っているところもそれなりにある、と承知しています。先ほども言っていました、2学級以上でないと学校として正常に成り立たない、ということではないと思います。担任と児童生徒の問題にしても、このような時代ですので、色々な問題が起きてきます。色々な子どもがいますので、目が行き届くとか、届かないという問題もあります。そういうことから、私が考えるのは、教育を行政の中でどのように位置づけるか、という根本的な問題があると思います。例えば、耐震化の問題につきましても、いつ起きるか分からない地震に備えておかなければならない、ということにははっきりしています。大変なお金がかかると思います。しかし、備えていなかったならば、大変なことになることもありえます。人命にかかわりますので、財政的に困難だから、財政が豊かになるまで待つ、という問題ではないと思います。ただ、現在の北広島市の耐震化がどの程度なのか分からないで発言しておりますので、北広島市が耐震化をしていない、という意味ではありません。それなりに調査もされ、実態把握を当然されている、と思う中で発言しています。教育に、これからの日本を担っていく子どもたちに、どれだけのお金をかけるか、という問題だと思います。それは、私が言うのではなく、教育行政に携わっている方々は十分ご存知だと思いますが、現に苦しい中で、少人数学級を拡大、充実している地域も全国にはあるということ踏まえて、目を向けていただいた上で、少人数学級の良さや小規模学校の良さについて、再度じっくりと目を向けていただければと思います。

事務局 最初の方のご意見で、平成17年6月に審議会に諮問を行い、検討されてきました。平成17年11月に、適正規模についての中間答申がありました。その後、平成18年12月に適正配置の最終答申がありました。この経過につきましては、市の広報で市民の皆さんにお知らせをしているところであります。その広報の中で、意見をいただくようにしております。例えば、平成17年12月号の広報で、適正規模について検討された結果をお知らせしております。その中で、中間答申に対しての問合せや、説明会のご案内についてもしております。その後、平成19年8月号の広報で、北広島団地内小学校の新たな適正配置について、教育委員会としての方向付けがされ、その考えについて

掲載しています。その中でも、皆さんからのご意見・要望等がいただけるように、お知らせをしながら進めてきており、現在の説明会に至っております。

また、財政状況についてのご質問ですが、当初からご説明をしていますが、今回の検討の契機は、財政的な面を優先して検討に入ったということではありません。結果的には、お金の面からできない、という回答になっている部分もありますが、あくまでも財政的な理由から検討はしておりません。現状の児童数の減少に伴う、市内全体の学校規模の格差について、教育の機会均等という面から、小学校のあり方について検討に入ったということでご理解をお願いいたします。

それから、適正規模化することによって、小規模学校の良さが全く無くなる、というお話もあったと思います。適正規模にすることによって、現在、小規模校として持っている良さが薄くなる、ということにつきましては否定をすることはできません。一人ひとりにかける時間が、多少少なくなることはあると思いますが、検討の中で適正規模化することによって、小規模学校の良さを生かしながら、逆に、小規模学校の課題をクリアできると考えております。例えば、2学級以上にすればクラス替えはできますが、小規模校では不可能です。適正規模の範囲であれば、小規模校の良さも生かしながらより教育効果が上がる、という観点から検討が進められてきております。

子ども同士のふれあいの場を多くしたいのであれば、交流学习・時間を多くすることを考えるべき、というお話もありました。これにつきましては、現在も可能な範囲で行っております。ただ、学校では教育課程というものが組み込まれています。その中の授業時間は限られております。より多く子どもたちが触れ合う機会を作り、そういう環境で教えたい。そうした環境が、無理の無い範囲で可能であれば、学校統合という選択をしたほうが良いという考えが基本にあります。交流事業につきましては、時間的制約や移動等もありますので、現実的な面から頻繁に行うことは難しい点があることもご理解をお願いいたします。

住 民 初めて参加させていただきました。小学校にも通学できる範囲ということで、北進町に2、3年前に転入してきました。なので、この統合には残念に思っています。でも、統合ということについては、基本的に賛成です。

個人的な質問になりますが、子どもが近々小学校に入学しますので、周りの方と相談しながら決めることになるとと思いますが、東部小学校への区域外通学について質問します。東部小学校に、北進町の子どもが大勢通学するようになって、東部小学校は受け入れてもらえるのですか。また、申請をすれば、直ぐに東部小学校に通学できるのでしょうか。

事務局 仮に、北進町の高層住宅のお子さんが全員、東部小学校に通学しても施設的には十分対応できると考えております。必要な期間につきましては、保護者の方々が東部小学校

に通学する方が望ましいとした場合は、統合ということで認めます。期間につきましても、小学校に在学している期間を認めます。例えば、小学校3年生で申請をしていただければ、4年間認めますし、1年生であれば、6年間認めます。

住 民 それでは、来年1年生に入学する児童も対象でしょうか。

事務局 統合がまだ決定しておりませんので、現時点では認められません。決定した後であれば認めていきます。

事務局 ちょうど12時になりました。質問等が無いようでしたら、今日の説明会はこれで終わらせていただきます。これまで、20日から今日まで三地区に分けて6回の説明会を開催させていただきました。今回の広葉小学校区の説明会に限らず、今まで他の地域を含めて3回の説明会を開催しております。今後のことにつきましては、今回の説明会のことも含めまして、どのように対応していくべきかを検討して方向付けをしていくことになると考えております。

今後、皆さんに説明や報告することになった場合は、皆さんにお知らせをしながら進めていきます。それでは今日の説明会はこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。

注) 発言を要約したものであり、発言すべてを記述したものではありません。